

産学官による地域技術者連携の 更なる促進に向けて

RIST幹事
熊本県産業技術センター 次長
土村 将範



RIST(くまもと技術革新・融合研究会)の30周年おめでとうございます。

平成元年の設立以来、熊本県内の産学官における技術者コミュニティとして「ゆるやかな」連携を推進してきたRISTが、社会・経済情勢の紆余曲折を経ながらここまで長く継続できたのも、会長はじめ各幹事や会員のご努力、さらには熊本県や熊本市などの関係者の皆様方の御支援のおかげと感謝しています。

私とRISTとの関りにつきましては、創立10周年の頃からであり早いもので20年以上になりました。その間に、各種技術検討会の世話役やイブニングスクールの企画実施、フォーラムや技術研修の開催、併せて企画委員を経て幹事として会全体の運営にも参加させていただきました。そこでのネットワークをもとに、歴代会長をはじめ各大学の先生方のご指導とご協力により、各事業後の交流会を楽しみに、微力ながら地域における産学官連携にも貢献できたと感じています。

さて、最近の地域企業においては、世界的な技術開発競争だけでなく社会変革としての第4次産業革命やSociety5.0など、これまでに無い大きな激変のうねりが押し寄せています。一方、国内においては少子高齢化や労働人口の減少、働き方改革など産業を取り巻く環境も大きく変わることが当然予想されるとともに、地域企業現場にもロボット技術やIoT、AIの活用による最新技術を駆使した

付加価値と生産効率向上への対応は避けられない状況です。このような状況のもと、地域産業の継続的な発展のためには、自社開発にこだわらず急速に変革する時代にスピード重視で対応することが重要になります。トヨタにおいても、最新技術の有効活用と世界競争への迅速な対応を目的に、単独開発ではなく「オープンイノベーション」を積極的に推進し、他業種や国内外のベンチャー企業等との連携による技術開発を加速させています。

一方で、地方での産学官連携には、大企業や東京と異なり依然として資金・人材や産業集積不足などの難しい課題もあります。しかしながら、RISTも設立当時は、ファジーやニューラルネットワークと初期のインターネット通信技術の技術開発を目指す「熊本知能システム研究会」でした。30年後の現在注目されている人工知能やAIは、当時の研究開発成果を基礎に、超高速な大規模コンピュータとIoTネットワーク技術との飛躍的な性能向上とが相互連携した結果であり、先述した変革を促進する技術的原動力のひとつとなっています。加えて、激動や変革の時代にこそ、未来への新しいチャンスも無数にあります。今後もRISTにおいて、熊本の地域性やメリットを生かしつつ、オープンな産学官による技術者同士の地域連携を進め、着実な成果を生むことを期待します。

今後もRISTの発展と活躍を心より祈念しております。